

本研修の目的

企業が DX を実現するために必要となる「変革を受け入れる土台」を、組織全体で高めることにあります。DX は一部の部門や担当者だけで完結する取り組みではなく、経営層を含む全社員が、DX の意義や必要性を理解し、関心を持って関わることではじめて推進力が生まれます。

本研修では、DX を「特定の誰かの仕事」ではなく「自分自身の仕事」として捉えられる状態を目指し、参加者一人ひとりが DX を自分事として理解し、行動につなげるきっかけを提供する。

第 1 章：DX の基礎理解

1-1 DX とは何か

1-2 なぜ今 DX が必要か（外部環境の変化／社内課題）※業界別に具体化

1-3 日本企業の DX の現状（海外比較を含む）

1-4 日本で DX が進みにくい原因

第 2 章：DX の取り組み方 3 選（社内業務・既存事業・新規事業）

2-1 社内業務の高度化・効率化（成果が出やすい領域）※他社事例

2-2 既存事業の高度化（品質・納期・コスト・顧客対応の強化）※他社事例

2-3 新規事業開発（新しい価値・収益の柱づくり）※他社事例

2-4 優先順位と次の一手（小さく始める計画）

第 3 章：DX を進めるためのマインドセット

3-1 身に付けるべき 7 つのマインドセット

3-2 マインドセットを現場で行動に落とす（経営／管理職／現場の観点）

第 4 章：DX を推進するために使われるデジタル技術（基礎知識）

4-1 デジタル技術の主要キーワード（概要）

- クラウド
 - IoT
 - データレイク
 - デジタルツイン
 - メタバース
 - ブロックチェーン
 - AI（概要：できること／苦手なこと）※次章へ
-

第 5 章：生成 AI の活用と留意点

5-1 生成 AI の基本（できること・得意領域）

- 5-2 生成 AI ツールの全体像（いま使われているツールの種類と選び方）
- 5-3 活用パターン（部門別・業務別の例）
- 5-4 使わない場合のリスク（個人）
- 5-5 使わない場合のリスク（組織）
- 5-6 安全に使うための留意点（機密・個人情報・著作権・誤情報対策）

研修で参考にした参考文献

- ・DXレポート (https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/dx/20180907_03.pdf)

- ・[DX 白書 2023 | 書籍・刊行物 | IPA 独立行政法人 情報処理推進機構](#)

- ・[「DX 動向 2025」日米独比較で探る成果創出の方向性「内向き・部分最適」から「外向き・全体最適」へ | 社会・産業のデジタル変革 | IPA 独立行政法人 情報処理推進機構](#)

- ・[「生成 AI 時代の DX 推進に必要な人材・スキルの考え方」を取りまとめました（METI/経済産業省）](#)

- ・[デジタルスキル標準（METI/経済産業省）](#)

最後に

私は、日本企業の DX 推進を後押しする活動を進めていきたいと考えています。

日本では、DX の必要性が叫ばれている一方で、「何から始めればよいのか分からない」「現場が自分事にならない」「推進できる人材が足りない」といった理由から、取り組みが思うように進まない企業も少なくありません。

私は、こうした状況を少しでも前に進めるためには、一人ひとりが DX を理解し、関心を持ち、自分の仕事や組織の課題と結びつけて捉えられる状態をつくることが重要だと考えています。

その第一歩として、本研修を 90 分の講演形式で無料提供しています。DX を推進するうえで必要な考え方や、具体的な取り組みの方向性、デジタル技術・生成 AI に関する基礎知識を、できるだけ分かりやすく整理し、「自社では何が課題で、どこから着手できるのか」を持ち帰っていただける内容にしています。

この研修が、日本の DX が一歩でも前に進むきっかけになれば嬉しいです。

ぜひ、企業様の方興味ございましたら、以下に連絡をいただくと幸いです。

メールアドレス : takeshi.suzuki@inobit.jp

TEL : 080-5138-2452

LinkedIn : www.linkedin.com/in/takeshi-suzuki-97718a1b6